



## 成人用肺炎球菌ワクチンの接種を 肺炎予防

高齢者の死亡原因の一つに肺炎があります。高齢者は免疫力が低下しているため、他の病気が引き金になって肺炎を併発し、死に至ることがあります。肺炎の原因の一つには細菌感染

によるものがあります。細菌感染にはたくさんの種類がありますが、中でも肺炎球菌の感染による発症が大きな割合を占めています。肺炎の治療は、原因を調べて必要に応じて抗菌薬を投与することが一般的ですが、まず病気にかからないようにすることも重要です。肺炎球菌にはワクチンがあり、予防することができます。

小児の場合、肺炎球菌が脊髄にある髄膜に感染して起こす、化膿性髄膜炎という病気があります。毎年、幼い命が失われ、一命を取り留めたとしても重度の後遺症が残ります。日本では小児用の肺炎球菌ワクチンの任意接種が4年ほど前から始まり

ました。そのため、明らかに化膿性髄膜炎の発症数が少なくなってきました。2年前には定期接種となり、その効果は歴然としてきました。予防接種の有効性が証明されました。

定期接種は、対象者に国や自治体から費用の補助があるワクチンのことです。小児用肺炎球菌ワクチンは髄膜炎などの予防にポイントを絞っていますが、成人用肺炎球菌ワクチンは成人の肺炎の予防にポイントを絞ったものになります。これまで成人用肺炎球菌ワクチンは任意接種でしたが、10月から定期接種へ変更となりました。すぐに希望者すべてが接種できるわけはありませんし、費用も一部自己負担になります。対象年齢で希望する人には接種することをお勧めします。

吹田市医師会 西野 淳司